

米沢市上杉博物館 「上杉文華館」 目録

年間テーマ：上杉定勝

1月2日（日）～1月30日（日） 期間テーマ：定勝の文芸②～定勝と書物～

資料名	頁数	法量 (cm)	時代	番号	所蔵
複製 狩野永徳 国宝上杉本洛中洛外図屏風	六曲一双	各160.4×365.2	原本 室町～桃山 (16世紀)	複製A	米沢市上杉博物館
1 上杉家文書 1 上杉定勝 薬師如来縁起	1冊	13.9×9.1	(江戸時代前期)	1162	米沢市上杉博物館
2 上杉家文書 2 上杉定勝「手習双紙」	1冊	17.7×12.0	(江戸時代前期)	1624	米沢市上杉博物館
3 上杉家文書 3 上杉定勝『古案集 坤』	1冊	18.0×13.0	(寛永年間カ)	1754	米沢市上杉博物館
4 上杉家文書 4 上杉定勝聞書 (城責ノ巻)	1通	16.0×45.4	(江戸時代前期)	1787	米沢市上杉博物館

本年度の上杉文華館は「上杉定勝」と題して、国宝「上杉家文書」に見える上杉定勝関連資料を中心に約1ヶ月ごとに展示替えしながら、その他の関連資料を含めて展示します。

上杉定勝は、慶長9年（1604）5月5日、米沢藩初代藩主・上杉景勝の長男として米沢城で生まれました。母は側室の公卿・四辻公遠よつづききんとうの娘でした。元和9年（1623）に景勝が死去すると、定勝は2代藩主に就任しました。定勝の藩政では直臣による合議的な政治体制のもとで、米沢城内の整備や家臣団の再編成、キリシタンの取締りの強化、藩内の総検地などが行われました。定勝の藩政は、これまで行われてきた直江勢力による専制的な執政体制からの大きな転換期と位置付けられており、その後の米沢藩政の基礎となりました。定勝は、正保2年（1645）9月10日に米沢城で42年の生涯を閉じます。

また、定勝は文芸面にも優れており、漢詩や和歌（連歌）などを多く残しています。『上杉家御年譜』には、飛鳥井家あすかい・勸修寺家かじゅうじ・高倉家などの公家との交流が多く確認できるほか、近侍の諸士に中国古典の内容を講義する記載も見られます。定勝はまさに文武両道の藩主だったと言えます。

〔定勝の文芸②～定勝と書物～〕

今回のテーマでは、定勝が遺した書物に注目しながら、定勝の文芸面について見ていきます。国宝「上杉家文書」には、多岐にわたって定勝がまとめた書物が多く遺されています。定勝自身の手習本（文字を書く練習のために筆写した冊子）や、近世初期に学問として体系化された兵学に関する書物などが存在します。これらは、当時の大名の学問観や思想を知る上で貴重な資料と言えます。

また、定勝は先祖の主に謙信、景勝に関わる史料を収集・採録し、上杉家の歴史編纂事業の始まりとなる書物を作りました（上杉定勝『古案集 乾・坤』（国宝「上杉家文書」1753、1754））。これは、米沢藩の史料編纂事業の先駆けとして位置付けられています。

定勝の遺した書物は、自身の教養をうかがい知ることができるだけでなく、大名の文化的営為を知ることができます。